

公認会計士法友会会報

公認会計士法友会

第39号

令和8年1月発行



令和7年度会員研修会・合格祝賀会開催のお知らせ

令和8年1月24日(土)に開催いたします。

・会員研修会 受付 15:30 / 開始 16:00 / 終了 17:00

　演題 調整中(AIなど会計士に関わるテクノロジー)

　講師 稲垣大輔 会員(2015年経済学部卒)

　場所 法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見坂校舎「F309」

・合格祝賀会 受付 17:30 / 開宴 18:00 / 終了 20:30

　法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎6階 薩埵ホール

　(会費)会員 10,000円 / 会員(試験合格者) 5,000円

参加の連絡をいただいていない方は、右のQRコードを読み取っていただき、入力をお願いいたします。

合格者が40名と昨年に引き続き40名以上となりました。ぜひ、皆さんでお祝いをしたいと思います。



目次

会長挨拶	2	ゴルフコンペ	10
令和6年度公認会計士試験合格者の近況	4	会費等納入の御礼	10
雑感	6	友好団体等への参加報告	11
法政士業の会だより	8	令和6年度定期総会決議等の概要	14
一般社団法人法政大学校友会の活動状況について	9	会員研修会報告	14
校友会終身会員所属変更	9	編集後記等	16

同封物:会報、郵便口座振替用紙



会長挨拶



新年おめでとうございます。公認会計士法友会の会員の皆様、新年のご祝詞を申し上げます。各位の各分野でのご活躍をお慶び申し上げます。

2026年が皆様にとりまして明るく輝かしい年ありますことを祈念申し上げます。

毎年、全国の会員の皆様から、会費と寄付金のご芳志を賜り、誠にありがとうございます。会員各位の多大なるご支援に本当に感謝に堪えません。

おかげ様をもちまして、法政大学の内外における公認会計士法友会のプレゼンスを何とか維持できているのも、会員の皆様方のご賛同とご協力の賜物であると、役員一同を代表いたしまして、深く感謝申し上げます。

法友会の目的である『会員の相互交流・親睦を深めるとともに、母校の発展と後進の育成に貢献する』に基づき、新しい若い世代の会員への橋渡し役になるべく、河西事務局長はじめ、役員諸氏の精力的なご対応と協力を受けながら、なんとか会長を務めさせていただいております。引き続き、会員の皆様からのご指導ご鞭撻のほど、なにとぞお願い申し上げます。

今回も、この半年間のイベントについてのご報告と、今後の方針等を述べさせていただきます。

【定期総会の開催と役員改選について】

●今年度の公認会計士法友会定期総会は、2025年9月1日にボアソナード・タワー会議室で開催いたしました。総会後の会員研修会は、法政大学経営学部教授・高度会計人育成センター長の川島健司先生から「会計専門家のためのワインテイスティング入門」のご講演をいただきました。(詳細は、後掲の報告ご参照。)日本ソムリエ協会ワインエキスパートでもある川島先生からの講義は非常に興味深く、引き続き行われた懇親会には、お知り合いのワイン専門店から提供された美味しいイタリアワインとマリアージュを堪能し、ご出席の来賓の皆様、友好他大学から多数ご臨席いただいた会計士団体の会長、副会長、法政士業の会の役員諸氏も交えて会員相互の懇親を深めることができました。

●今年度の定時会員総会において役員の任期改選が行なわれました。前号でもお知らせしましたとおり、今回は、現役員の皆様には基本的に継続(留任)をいただき、次の改選期を踏まえて会長等の役員推薦と選任手続の会則改正を行ないました。そこで、次の新役員体制を見据えて、もう一段の若返りを図るため、今回は多くの若手役員を登用しました。

●若手役員の役員登用につきましては、以下のとおりです。

会長 太田莊一(昭和52年卒)

(1) 若手の副会長として、これまで幹事として役員活動に積極的に取り組まれている次の方々を副会長に登用しました。

森口輝来さん(平成11年卒)祝賀会・総会担当(継続)

佐竹健二さん(平成12年卒)士業の会担当(新年度より)

鵜藤葉子さん(平成14年卒)若手育成担当(継続)

今後は、これまでの活動に加えて、副会長として友好他大学等の懇親会の対外活動にも積極的に参加してもらいたいと思います。

(2) 若手の役員としてあらたに次の方々を幹事に登用しました。

牧野智成さん(平成12年卒) 若手育成担当

新井良明さん(平成23年卒) 若手育成担当

若杉七海さん(令和4年卒) 会員親睦担当

鵜飼颶大さん(令和5年卒) 祝賀会・総会担当

幹事の担当についてはこれまでのような「補佐」ではなく、自ら主体的に活動してもらう「担当」としましたので、各位には積極的に活動されることを期待しております。

なお、役員以外にも若手会員の皆さんには、イベント等の開催ごとに協力者を募りますので、是非とも積極的な活動への参画協力のほどよろしくお願ひいたします。

【法政大学校友会「全国卒業生の集い」等への参加について】

●2025年10月18日(土)に福岡市で開催されました「法政大学全国卒業生の集い 福岡大会」には、公認会計士法友会からは、飯塚副会長、山田副会長、酒井監事、小野会員、太田と毎回参加される北村敏雄さん(1972年卒)、尾町雅文さん(1976年卒)が式典及び全体懇親会に参加されました。ご参加の皆様、ありがとうございました。

●式典当日の午前中に開催された法政士業の会による「よろず無料相談会」には山田副会長と太田が対応しました。公認会計士の相談ブース(上場準備、経営戦略等)には今回も相談者はありませんでしたが、同相談会は今後も継続して開催が予定されていますので、会員諸氏にはご協力のほどお願ひいたします。

●次年度の「全国卒業生の集い」は、既に「長野大会」として、開催日程(2026年10月24日式典)が決定しておりますので、会員の皆様には是非とも奮ってご参加いただければと思います。

また、新年の恒例行事である「2026年オール法政新年を祝う会」は、今年もお台場のホテルでの開催(2026年1月25日(日))が予定されています。会員の皆様におかれましては是非とも参加されて、大いに法政OB・OGの校友の連携を図ろうではありませんか！！

【本学受験生への奨学支援と会員寄付の拡充について】

●令和7年11月8日に定例となっている高度会計人育成センター主催の学内簿記チャンピオン大会が開催され、試験後の現役学生との交流・懇談会には若手の会員にも参加いた

だきました(詳細については、後掲の簿記チャンピオン大会報告記事参照。)が、表彰式において、公認会計士法友会からの奨学支援金として、成績優秀者に受給資格証を付与(短答式受験を条件に使途を専門学校の受講費充當に限定して5万円を給付するもの)いたしました。

●本「奨学支援金制度」は8年前に創設し給付を継続しておりますが、これまでの給付実績は、2016年度から2023年度までの8年間合計で36名が受給し、このうち短答式合格者が28名、最終合格者が現在までに19名出ているということで、受給した学生の合格者数及び合格率は非常に高いという嬉しい結果が出ております。

●法友会としてはこれを継続し、さらに拡充していきたいと考えておりますが、この原資として会員の皆様からのご寄付済財が不可欠であります。なにとぞ皆様のご支援ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

(後記のとおり、会費の納入者が年々減少しており、それに伴い年度寄付金も暫減しております。合格祝賀会や会員総会時に出席者から徴収しております「会費」はそのほとんどが懇親会費用に費消されており、会務運営や奨学支援金の原資拡大のためには、別途に、皆様からのご寄付ご芳志が必要である現況であることをご理解いただければ幸いです。)

【高度会計人育成センターと連携しての合格者増大のための諸施策について】

●付属校の内部進学生を対象にした公認会計士制度説明や職業の魅力の紹介等の啓蒙活動を推進しております。合格者数上位の大学は、付属校と大学との連携により、高校生のうちから公認会計士試験合格のための教育課程や職業啓蒙活動が進んでいると聞いており、法政大学においても、昨年度来、経営学部の高大連携ご担当の川島先生の指導のもとで、来る1月に開催予定の三付属校からの経営学部内部進学者全員を対象にした「公認会計士制度説明会(合格体験談を含む)」への当会の若手役員、会員の参画や、また昨年に引き続き法政二高におけるワークショップへ参画することも予定しています。特に付属校出身の若手役員、若手会員には、各イベントへの参画対応のほど、よろしくお願ひいたします。

●今後もこれらを更に継続拡充して、高度会計人育成センターと協力して、本学からの受験生の拡充による合格者増加のための諸施策(付属校の高校生への会計士の職業の魅力紹介や会計士試験合格への啓蒙活動の推進、更に、「実務の最前線での実践的なテーマでの寄付講座」等の開講企画)を継続して促進していきたいと考えております。

●これらの活動が近い将来、会員各位がそれぞれの得意な専門分野や出身高校毎に対応できるよう、そのレールを敷設することが現役員体制の使命と考えます。

●令和6年度に和食克雄顧問から公認会計士法友会に対して特別寄付金(200万円)を收受いたしました。当会としては、法政大学からの公認会計士試験合格者の今後益々の拡大のために活用してもらいたいというご意向に基づき、名称を「和食奨学基金」とした特別会計を設置し、使途については、後進の育成、特に卒業生の受験者に対する支援のための活動に充当することとし、具体的な支援活動計画につ

いて役員会にて検討することとしました。

現在、若手役員を中心にして、卒業生受験者を対象にした若手会員との交流会等の開催を鋭意企画しております。

●また、この趣旨に賛同する会員の皆様に、同「基金」へのご芳志をお願いしたいと考えております。諸先輩方をはじめとする篤志家の皆様には、あらためてご案内をお願い申し上げますので、なにとぞご協力のほどお願いいたします。

【最後に】

●昨今、経済界は人手不足で学生の売手市場の状況が継続しており、公認会計士試験受験を目指す学生も思ったように増えませんが、2025年度も多数の最終試験合格者が輩出され、当会にも多くの新しい仲間が増えます。

今後も法政大学からより多くの公認会計士を輩出するためにも、さらに、将来のある若い皆さんに活き活きとして集い結ぶ業界・魅力ある士業となるよう、法友会としてもまだまだやるべきことはたくさんあります。

●2025年度の公認会計士試験合格祝賀会は、2026年1月24日(土)に開催いたします。毎年参加されています会員諸氏におかれましては勿論、しばらくご無沙汰しております会員の皆様にも是非ともご参集をいただき、「法政、我が母校♪」と声高らかに校歌をご一緒にしましょう。

「フレー！！フレー！！法政、 ガンバレ！！ガンバレ！！合格者」

以上



(10月に山中湖畔に在住される高村茂さん(昭和48年卒)を法友会の有志メンバーで訪問しました。)



令和6年度公認会計士試験合格者の近況

合格者に近況を報告していただくコーナーです。

●竹之内 あかり（令和7年卒）

2025年3月、経営学部市場経営学科を卒業した竹之内あかりです。私は大学4年生のとき、2024年8月に行われた論文式試験に合格しました。昨年度、私自身も「合格者の近況」を拝読しておりました。この度は寄稿の機会をいただきましたことを大変光栄に思います。以下、大学時代の様子から合格後の近況についてお伝えいたします。



私は大学入学後に開催されたHAPPの説明会をきっかけに、会計士を志すことを決めました。予備校の先生方が語る監査という仕事にそのものに興味を持ったからです。特定の会社に監査という形で関わることが新鮮で、自分もその仕事に挑戦したいと考えるようになりました。入学時はコロナ禍で先行きが不透明な状況でした。安定して働ける職業である上に、自分がやってみたいと思う仕事は会計士しかないと確信しました。そこで、大学1年生から会計士試験の勉強を開始しましたが、短答式試験には二度不合格になりました。そんな中、法政大学を卒業された講師の方から「会計士になるためには、会計士試験を受験しなければならない。受験を諦めたら受からない。」とアドバイスをいただきました。至極当然のことですが、この言葉は成果がなかなか出ない時期に私を支えてくれました。大学3年生の12月に短答式試験に合格した時は、ようやく自分の番が来てくれたと思いほっとしました。その後の論文式試験の勉強はひとりでは辛いことも多かったです。毎日自習室に通い、予備校とHAPPの受験仲間とお昼を食べている時間が唯一の息抜きになっていました。論文式試験の直前にコロナに感染し、試験直前期は勉強できませんでしたが、無事合格することができました。



合格後、就職活動が始まりました。大学時代は受験勉強

に専念していましたが、人生におけるひとつの目標として英語を身につけたいという気持ちがありました。日本語以外の言語を身に着けることで、自分の考え方がさらに広がると感じていたからです。そのため、就職活動では「働きながら英語を勉強できる」という軸で法人を選びました。そして2025年4月にPwC Japan有限責任監査法人に入所しました。金融事業部に所属し、現在は外資系金融機関の監査を担当しています。このチームの監査対象は日本法人ですが、監査調書は全て英語で書かれています。また、USやインドなど海外のクライアントとのコミュニケーションがあり、英語を身に着けたい私にとってはぴったりの環境でした。

初めていただいた仕事は、英語話者のマネージャーが参加するチームの会議に出席し、英語で自己紹介をすることでした。それまで英語を話す機会はほとんどなく、全く得意ではなかったため、必死に台本を用意して臨みました。非常に緊張しましたが、無事に乗り越えたときは安心しました。

チームに所属して数か月経った頃、大きな転機が訪りました。チームにPwC UKからの出向者が加わったのです。それまで、マネージャーの英語話者の方が参加されるチームの会議は英語で行い、シニアの方との現場レベルの会話は日本語で行われていました。彼女はシニアの職階で日本にいらっしゃったため、現場レベルで英語でやり取りする機会が格段に増えました。最初のころは英語で送られてくるチャットの返信に悩んだり、チームランチの際に緊張して言葉が出なかったりしました。黙ってしまいがちな私にも、彼女が毎日明るく話しかけてくれたおかげで、少しずつ会話ができるようになりました。英語に毎日触れることで成長を感じていて、同期や上司からも英語が成長したと褒めていただけた機会が増えています。

プライベートでは、大学卒業前に運転免許を取得しました。兄がマニュアル免許を持っていたため、私も同じマニュアルの教習を選択しました。教習所でマニュアル車を運転して、もっと上手くなりたいと向上心が生まれ、勢いでマニュアル車を購入しました。初めは平坦な道路でもエンストしたり、ギアチェンジで車ががたがたと揺れたりましたが、今は上手くできるようになりました。休日は家族や友人を乗せてドライブを楽しんでいます。車を購入したことで地元のお店や景色を見ることが増え、地元への愛が深まったと感じます。最近は高速道路をひとりで運転できるようになるという新たな目標を立てています。

法政大学への入学をきっかけに会計士を目指し、試験に合格し卒業することができました。今後も日々の業務に真摯に向き合い、社会人としても信頼される人になることを目指して精進します。

●高山 大誠（令和6年卒）

〈ご挨拶〉

法友会の皆様、こんにちは。2024年に法政大学経営学部経営学科を卒業した高山 大誠と申します。僭越ながら寄稿の機会をいただきましたので、簡単な自己紹介とともに、公認会計士試験合格から一年が経った今日までの振り返りとプライベートについてお話をさせていただきます。縦・横のつながりが共に強い業界ですので、今後関わる機会があればどうぞよろしくお願ひいたします。



（予備校合格祝賀会にて 右が私です。）

〈試験期間について〉

私が公認会計士を目指し始めたのは大学2年の冬頃です。最初は何らかの形で家業を手助けしたいという思いから勉強を始めましたが、勉強を進めていくにつれて公認会計士という資格の社会的意義や奥深さに魅了され、社会に貢献できる専門家を目指して努力を続ける決意を新たにしました。

私は何度も試験に落ちた経験があり、決して受験生活は順風満帆とは言えませんが、約2年半の勉強期間は充実していましたように感じます。自身で課題を考え、それを日々の勉強に取り入れ、時には講師の方からいただいたアドバイスを参考にしながら取り組みました。それらの行動が点数に結び付いた時には苦労が報われたようで、心から嬉しかったことを覚えています。予備校の講師の方々はもちろん、家族や友人のサポートなしでは決して成し遂げられなかつたと思います。合格時には様々な方からお祝いのメッセージや電話をいただき、忘れられない思い出となりました。



〈現在について〉

私は現在有限責任監査法人トーマツ・PSHC事業部のスタッフとして働いています。就活時からパブリック領域である学校・農協・独立行政法人などの監査や非監査業務に興味を持ち、日本の社会インフラを支える専門家として働きたいと考えていました。就活時に関与したいと思っていた領域はもちろんですが、その他にも現在はエネルギー領域や公益法人の非監査業務、IFRS監査にも携わることができ、様々な知見を日々吸収しながら働いています。現場の方々と接する機会も多く、そのたびにこの仕事のやりがいを改めて実感しています。今後も、より一層成長できるよう努力していくと考えています。

また、監査法人に入って感じたことは、尊敬できる友人や

先輩が多いことです。私は事業部の特性上様々な領域の専門家・先輩方と一緒に働く機会がありますが、多種多様な経験や知見を活かしたアドバイスをいただくことができ、人としても尊敬できる方が多いと感じました。これは先輩方に限らず、同期も同じです。日々、同期と切磋琢磨し刺激を受けるとともに、支え合いながら楽しく過ごすことができています。先日も同期で忘年会を行いましたが、話も盛り上がりとても楽しい会となりました。



〈プライベートについて〉

入社してからは会社の同期はもちろんですが、様々な友人に会って楽しく過ごしています。私は飲み会が好きなので、定期的に集まってお互いの近況報告や他愛のない話を楽しんでいます。

（昨年の高校の友人との忘年会の様子）



また、日本国内の様々な場所に旅行に行く機会が増えました。旅行に行った際には各地の美味しい料理や景色を楽しみ、ゆっくり温泉に浸かり日々の疲れを癒しています。特に最近訪れた伊豆への旅行はとても良く、温泉と料理のどちらも堪能することができました。伊豆旅行で宿泊した「浜の湯」はとてもおすすめなので、皆さんも機会があればぜひ一度足を運んでみてください。



上記のほかにも、私は以前からサウナに行くのが好きで、今でも月に数回通っています。心も体もリフレッシュでき、自分へのご褒美として大切な時間となっています。また、合格してからはトレーニングにも熱中しています。週に3~4回ジムに通い、毎日を充実させることができていると感じます。どちらの趣味にも共通することですが、何も考えずに過ごす時間を意識的に作るように心がけており、そのおかげで心身ともに健康に過ごせていると感じています。

〈終わりに〉

ここまでお読みいただいた法友会の皆様、誠にありがとうございます。今後も法友会の一員として、また公認会計士としてより一層精進してまいります。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

2024年卒業 高山大誠



雑感 日本公認会計士協会千葉会の活動紹介

牧野 智成（平成12年卒）

こんにちは。2000年経営学部経営学科卒業の牧野智成です。2001年公認会計士2次試験に合格し、あずさ監査法人（旧朝日監査法人）に入社、現在は生まれ育った地元千葉で中小企業や非営利法人を中心に税務業務をしています。

日本公認会計士協会千葉会（以下千葉会）の副会長を3期9年歴任し、2025年6月の千葉会の総会で副会長を拝命することになったので、10年目がスタートしています。千葉会を盛り上げるために奮闘していますので、千葉会の活動紹介と私の会務活動についてお話をさせてください。

千葉会の概要について

千葉会の概要からお話ししますと、千葉会は日本公認会計士協会本部（以下本部）の支部として北海道から沖縄まで16ある地域会の一つになります。東京会などは地域会の下に地区会というさらに支部を設けていますが、千葉会は千葉県单一県を地域会としています。千葉会はかつて東京会の地区会の一つ（千葉県会）でしたが、地区会の会員数が多くなってきたことに伴い、2013年に神奈川県会が、2016年に埼玉会と千葉会の3つの地区会がほぼ同じ時期に地域会となりました。

千葉会には現在会員・準会員合わせて約1,000名の会員が登録しています。特色として、監査法人勤務時代は東京会に所属し、監査法人を卒業して住所地である千葉会に登録を移す方が多いです。税理士登録をされている方は全体の約1/3くらい。私より上の世代の方は独立というと大部分の方は税務業務をされているという印象でしたが、私くらいの世代からは内部統制やベンチャー支援などのコンサルティング業務や、常勤・非常勤役員、経理部所属の組織内会計士が増え、税務業務は全くやらないという会員が増えてきている印象を受けます。

会員の登録地域は東京都内へアクセスが良い市川・松戸・柏の地域の割合が大きくなっています。登録は千葉会だけ仕事は東京都内に通勤しているという方も多いです。そのため千葉会事務所がある千葉駅まで行くのはかなり時間を要するという理由から千葉会役員になりたくないと思っている方や、組織内会計士の増加によりそもそも公認会計士の資格を意識しない方が増えていること、などの理由から役員のなり手が不足し役員改選時には役員になっていただけ

る方の確保に苦労しています。

千葉会の組織としては、会長の下に7つの委員会（総務会計・研修・業務・福利厚生・広報・後進育成・推薦）と6つの研究会（中小企業・社会福祉法人・学校法人・医療法人・IT・税務）があります。これらの委員会・研究会を会長・副会長・幹事が事務局（4名）と協力して会務を遂行しています。

地域会の重要な役割としては、本部との連携になります。本部の理事会・委員会等で決まったことを地域会活動に落とし込んだり、地域会の会員に周知したりします。例えば、広報の分野で、将来公認会計士になっていただく方を増やすために小中学校に対し「ハロー！会計」、高校大学に対し「制度説明会」などを実施しています。本部では実施部隊を持たないので地域会で担当し、千葉会では広報委員会が担っており、私の母校の高校などに公認会計士の業務の魅力を生徒に伝えています。逆に地域会での活動を本部の理事会・委員会等で報告し、本部の施策や他の地域会への横展開に反映



されています。もう一つ重要な役割としては、地域貢献になります。地域貢献のひとつに推薦業務があります。地方自治体から専門家としての意見が聞きたいということで地方公共団体の委員会などに専門委員の推薦や監査委員の推薦、包括外部監査人の推薦などを行っています。

その他、千葉会として研修会を企画し会員の自己研鑽に資する場を提供し、CPD単位取得の機会を提供し、地方公共団体、財務事務所、弁護士会等他士業などと連携を図り、公認会計士



のプレゼンスを高めて会員の業務拡大に貢献しています。

千葉会での私の活動

私の所管としては、後進育成委員会・広報委員会・中小企業支援研究会を担当してきました。後進育成委員会や中小企業支援研究会では企画研修会を考える際、自分だったらこんな研修を受けてみたいという意見が採用となり、監査法人から独立したばかりの方を対象に会計事務所の収益アップを図るセミナーや、会計ソフトベンダーに参加いただきパネルディスカッションをするセミナー、大手M&A仲介会社に事業承継事例のセミナーなどを企画し実施してきました。東京会会員なども参加いただき、千葉会はなかなか尖っている研修されるねとお褒めのお言葉をいただくことがあり、企画してよかったです。

広報委員会では、広報誌の編集などの対内広報と、前述の「ハロー！会計」「制度説明会」などの対外広報を担っています。広報誌の編集作業は委員のメンバー全員で細心の注意を払って間違えないように作業しています。「ハロー！会計」「制度説明会」は若手の会員が関心をもって担っていただいている。公認会計士の魅力を生徒に伝えるにあたり、改めて公認会計士の資格の強みなどを考えるきっかけになり、初心に戻るとても貴重な機会となっています。



千葉会が地域会になり2026年は10周年を迎えます。この間の大きなイベントは研究大会千葉大会があります。地区会から地域会になってすぐに、公認会計士協会で大きなイベントである研究大会を千葉会でやることを表明しました。約2年程度の準備をかけて2019年に幕張メッセ・同国際会議場で記念式典・基調講演・研究発表研修会・懇親会、旅行などのエクスカーションを企画・開催しました。私も役員として準備にあたる傍ら、研究発表会の千葉会枠で「若手会計士でも地域貢献が出来る」というテーマで研究発表も行いました。研究大会直前に千葉県に台風が直撃し、多くの樹木が倒れた状態のゴルフ場でエクスカーションのゴルフをしたのも良い思い出です。実行委員を募り多くの千葉会会員で準備に当たり、大変ではありましたが会員どうしの繋がり

が出来たイベントだったと感じています。

役員をやることについて

私は前述の通り東京会から千葉会が独立してずっと副会長ですが、独立前の千葉県会時代に幹事として初めて役員になりました。きっかけは千葉会のゴルフコンペに参加して、一緒に参加された役員の方に声をかけていただきました。千葉県会は何をしているのか、役員って何をするのか何も分からず役員になりました。

千葉会の役員会やイベントなどに顔を出す機会が増えたことで、多くの諸先輩方から声をかけていただき、可愛がっていただきました。監査法人時代や法友会関係の会計士しか交流がなかったのが、様々なキャリアをお持ちの会員との交流が一気に増え、一緒に仕事をしたり、紹介しあったりするまでになりました。

副会長という肩書が大きいとは思いますが初めてお会いする方でも信頼し話を聞いてくれるというのは、自分自身のとても大きな財産になっています。狙ってはいなかったですが、セルフブランディングには十分すぎるほど貢献していまして、自身の仕事の拡大に繋がりありがたい職務であると感じています。

一方で、副会長の職責はなかなか大変です。千葉会の役員会・常任幹事会・正副会長会が毎月1回どれかはあり、担当委員会の会議やイベントなどもあり副会長として出席しなければならない会議やイベントがとても多いです。税務業務されている会員は所得税の確定申告業務が2~3月にあるので1~3月の時期の企画は避ける傾向にあり、千葉会定期総会が終わる7月以降~12月くらいまでの期間に千葉会としての事業は集中しています。千葉会全体のこと、委員会・研究会での企画研修会やイベントの準備などほぼ毎日のようにメールがあるので返信等対応しています。自分の仕事で忙しい時期に千葉会の会務が重なるとなかなかしんどいときもあります。

なぜ副会長を4期目もやることになったかといえば、役員のなり手が不足しているのでやむなくということもあります。千葉会の特に若手の会員にはもっと活躍してほしい、活躍の場が広がってほしいと考えて副会長4期目の立候補をしました。千葉会の公認会計士が千葉県の地方公共団体や企業に対し貢献できる、すなわち千産千消(地産地消)を進めるべく、千葉会の仲間である会員とともに千葉会を盛り上げていきたいと考えています。



結びにあたって

あずさ監査法人入社当時、配属された事業部長が法友会の飯塚昇さんでした。その時から私のことを常に見ていただいている有難い存在でして、「君はマグロみたいに常に動いてないとダメな人だよね」と言われたことを記憶しています。

会務は無報酬(ボランティア)で利他の精神で頑張らないとやれないものではありますが、自分を成長させてくれているひとつと考えています。何かしていないと落ち着かない性格であるので、今後もマグロのように仕事はもちろん会務のほうも頑張っていこうと思います。

ぜひこれを読んでいただいた法友会会員の特に若い会員のみなさま、まずはぜひ、公認会計士協会のホームページや、東京会をはじめとする地域会のホームページをのぞいてみてください。協会の活動に少しでも関心を持っていただけたら嬉しいです。

興味のある研修会に参加してみる、楽しそうなイベントに足を運んでみる、あるいは母校の制度説明会に協力してみる、そんな小さな一歩からで構いません。みなさん一人ひとりの関わりが、協会活動をより豊かで魅力的なものにていきます。ぜひ一緒に公認会計士協会を盛り上げていきましょう！



父親の公認会計士50年表彰での記念撮影

法政士業の会だより

佐竹 健二 (平成12年卒)

2025年12月8日、法政士業の会の第8回定時総会・講演会・懇親会が開催されました。

法政士業の会は、法友会和食先生が中心となり、法政出身の公認会計士・弁護士・税理士・不動産鑑定士・行政書士・司法書士・中小企業診断士の7専門士業が中心となって活動を開始し、2016年11月の設立より8年が経過しました。私は、新年度から理事になることとなり、出席をさせて頂きました。

14時の定刻となり、会長である和食先生の開会の辞・ご挨拶で定時総会が開会となり会の活動報告や議題の決議が滞りなく進められました。活動報告では、役員間での活発なやり取りの状況や、大学や校友会との連携活動、研修の企画運営など、活発な活動状況の説明がありました。

そして、今回の総会で和食会長が2期4年の任期を終え、顧問へ就任されることとなりました。本当に疲れ様でした。新会長は法政会計人会の高田相談役です。

私も新任理事として諸先輩方とともに頑張ってまいります。

総会後は、講演会・会員研修会として研修担当の法友会太田会長が企画された「『士業』の原点と役割～AI時代における士業の現状と将来～」という今の時代を反映した研修です。中小企業診断士オレンジ会の山田静也会員を講師役に迎えて、生成AIの活用事例やAIエージェントが今後の士業の将来に与える影響についての講演に続き、双方向のディスカッション形式の研修会が行われました。ディスカッションでは、各分野で活躍される会員の皆さんから、活発な意見が出て大いに盛り上りました。

最後は、お楽しみの懇親会です。

各テーブルに様々な士業のメンバーが座り、和やかに情報交換・意見交換が行われました。締めは校歌の大合唱で、法政の絆を確かめてのお開きとなりました。



一般社団法人法政大学校友会の活動状況について

渥美 龍彦(昭和58年卒)
(法政大学校友会代表議員)

第12回定時総会

2025年6月28日(土)13時から、市ヶ谷キャンパス富士見ゲートG503 教室にて、一般社団法人法政大学校友会第12回定時総会が行われました。小野隆良会員から交代で代表議員となった私にとっては初めての出席です。飯塚昇会員が監事として、石川正敏会員が法政土業の会選出理事として、尾町雅文会員が宮城県校友会代表議員として出席されていました。代表議員計208名のうち、130名が会場出席、5名がオンライン出席、書面66名、合わせて201名が議決権行使のことです。Diana Khor総長、次いで竹中会長のご挨拶のあと、議事に入りました。

議案は3つあり、第1号議案は事業報告、決算報告、第2号議案は事業・予算計画、第3号議案は役員の改選、でした。

第1号議案については、最初に監事を代表して飯塚監事から解説を含めての監査報告、三井理事から事業報告、岡本理事による財務報告があり、その後、事前質問や会場からの質問への回答がありました。質問の中には、終身会員増加のための国家試験合格者に対する働きかけや、「ブロック会議実施状況」において日程会場が空欄になっているブロックがあることについての質疑応答がありました。土業の会も空欄でしたので、「ブロック会議」の「リアル」開催をどうするかは課題と考えます。

第2号議案については、資産運用益を活動費補助金として活用できないか(回答:特定資産運用益なので不可)等の質疑応答がありました。

第3号議案については、原案通り承認されました。

その後、報告事項に移り、市ヶ谷キャンパスでの校友設備の整備について(「校友施設」のキャンパス内の設置の方向)、三大イベント日程、校友向けメタバースの導入など説明がありました。また、校友会で実施している2募金の実績の報告がありました。

そして、陸上競技部竹口圭輔部長、苅部監督、坪田駅伝監督、主将、副主将、主務からのご挨拶があり総会は15時に終了しました。

15時からは、富士見ゲート3階つどいにて懇親会が行われました。



(写真は、左から尾町雅文会員、大島史也駅伝副主将、飯塚昇会員)

校友会終身会員所属変更

令和7年度に年度同期会からの所属変更をしていただいた方は、以下の通りです。どうもありがとうございました。

若杉 七海

(敬称略)



ゴルフコンペ

石川 正敏(昭和58年卒)

第38回CPA十月会コンペのご報告

2025年11月3日(文化の日)に、茨城ゴルフ俱楽部にて、開催されました。法政大学からも9人が参加し、総勢97人17大学からの参加者が集い、天候にも恵まれ盛大なコンペとなりました。

2年前より大会ルールが変更され、10人以上の参加校は2チームに分けての参加となり、前年及び前々年の優勝校も優勝権利が与えられることになりました。

今年の優勝校は3年連続の快挙を遂げた一橋大学、我が校は、残念ながら、11位／17校でした。直前に茨城ゴルフ俱楽部にて事前練習を敢行した成果が出せませんでしたが、大会終了後、恒例の2次会を駅前の中華料理店で実施し、大いに盛り上がり楽しい1日となりました。

第20回法友会ゴルフコンペのご報告

上記、十月会に先立ち、同コースにて「第22回法友会ゴルフコンペ」を2025年10月23日に開催いたしました。昨年準優勝の鈴木一宏会員がハンデ減少をものともせず優勝、梅村一彦会員が初の入賞となる準優勝でした。

法友会コンペはハンディキャップ方式のコンペですが、1位・2位に入賞しなかった方はハンデが1打ずつ増えていく方式を取っていますので、参加回数が多いほど、入賞の可能性が増えていきます。来年も10月の平日で企画したいと考えております、皆さまのご参加をお待ちしております。



第24回オール法政ゴルフ大会「総長杯」のご報告

2025年9月8日(月曜日)キングフィールズゴルフクラブにて、校友会主催による大コンペがゴルフ場貸切で開催されました。

朝から法政大学校歌がゴルフ場に響き渡り、ゴルフをされないDiana Khor新総長も懇親会にご参加され、盛大に開催されました。

法友会からは、6名のメンバーが参加し、懇親を深めました。

ゴルフ関係の、ご参加申込、お問い合わせは下記までお願いします。

eメール: ishikawa@aiwa-tax.or.jp

FAX: 03-5715-3318(あいわ税理士法人 石川正敏宛)

会費等納入の御礼

令和7年度(2025年12月18日まで)に会費・寄付等を頂いた方は以下の通りです。皆様、どうもありがとうございました。

(50音順、敬称略)

新井 良明	飯塚 昇	五十嵐 正明	井口 真宏	石川 垂依	石出 康子	伊藤 章子	梅村 一彦	太田 荘一
太田 真晴	越智 一成	小野 隆良	尾町 雅文	柿沼 幸二	金子 祐大	河合 三彦	河西 正之	北村 敏雄
君和田 和子	神田 忠二郎	古田土 満	小林 保弘	齋藤 太郎	佐藤 悟一	島田 幸樹	白取 洋	杉本 喜代美
鈴木 一功	高木 淳	高橋 和司	高村 茂	竹澤 隆国	竹村 謙一	館内 宏宣	豊島 忠夫	中村 幸信
西澤 利雄	橋本 美奈子	日浦 正貴	藤代 政夫	藤田 利弘	古川 直磨	眞岩 秀行	校條 太郎	矢田堀 浩明
矢部 豊	吉川 清司							

定期総会に参加いただいた方は以下の通りです。皆様、どうもありがとうございました。

(50音順、敬称略)

渥美 龍彦	飯塚 昇	石川 正敏	伊藤 将也	鵜飼 哉大	鵜藤 葉子	梅村 一彦	太田 荘一	大谷 はるみ
奥 朋	小野 隆良	河西 正之	木下 恵嗣	倉持 直樹	小場 貴之	齋藤 太郎	酒井 宏暢	佐竹 健二
高橋 良輔	竹澤 正人	春山 直輝	牧野 智成	三浦 太	矢部 豊	山田 努	吉田 実貴人	若杉 七海



友好団体等への参加報告

●青学会計人クラブ第44回定期総会懇親会 石川正敏(昭和58年卒)

2025年7月1日に青学会計人クラブの第44回総会に、小場貴之さんと小生とで参加してきました。

青学の総会参加は初めてで、会場のアイビーホール、名称もスマートで洒落ていて、青学の学風を感じさせます。

まずはアイビーホールに行って驚いたのは、1階にカフェとレストランがあって、誰でも利用可能なお店になっています。

建て直し前のアイビーホール青学会館では、チャペルも備えた結婚式場が

あったそうで、そのステンドグラスや家具が再利用されているとの事です。

さて、青学会計人クラブは会計士、税理士の共同団体で、会長は税理士の岩田篤氏(東京税理士会の理事もされています)です。

ご一緒した小場さんと挨拶と記念撮影にお伺いしたところ、なんと小場さんが代表を務められている銀座税理士法人の勤務税理士の方でした(ビックリ)。

東京会会長の高橋克典氏も参加されていました。また、小生は知りませんでしたが、小生の会計事務所と協業させていただいている方もいたりと、本当に世の中狭いものです。

最後に、青学のチアリーダーの演武で盛り上がり(残念ながら写真撮影は禁止でした)、閉会となりました。



●公認会計士白門会懇親会 河西正之(平成元年卒)

2025年7月10日、土砂降りと稻光がすごい中、白門会の懇親会に、越智副会長とともに参加してきました。

通常は大学施設での懇親会となるところ予約できず外部の中華料理店となったとのことです。

大沼教授による大学施設の紹介(DVD使用)では、懇親会会場として予定していたところは見晴らしの良い素敵な感じのところでした。近年、各大学では施設の新設・リニューアルに取り組んでいて、綺麗で快適なところが増えています。

さて、白門会では会長が2年任期で今年が任期満了の年とのことで、柴会長に交代となりました。丁度、専修と青学の人がいましたので聞いてみましたが、専修は会長の事務所が事務を担うらしく引き受け手が中々見つからないとの事でした。そのまま、会費と会員管理の話題になり、各友好団体でも共通の悩みであることを再認識して、開きになりました。



●公認会計士稻門会定期総会懇親会 太田莊一(昭和52年卒)

都内に梅雨期の雷と大雨が降る7月10日、中、公認会計士稻門会の定期総会懇親会に飯塚さんと出席してきました。

来賓に早慶出身の会計士協会の歴代会長が揃う中、対等にお話をいだだけるのは、今さらながら、和食前会長時代から他大学との交流を進めてきた成果と感謝しております。特筆すべきは、早稲田大学の校友会の中で唯一、公認会計士稻門会が外国人留学生に対する奨学金制度を継続されていることに対して、留学生本人と総務担当理事が御礼に来ていたのは、さすがにグローバル大学の余裕があると思いました。

当会においても、そこまではいかないまでも、受験生に対する奨励金制度を更に卒業生にも拡充していきたいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。」



友好団体等への参加報告

●専修大学会計人会 令和7年度定期総会後の懇親会 河西正之(平成元年卒)

2025年7月25日に専修大学会計人会の懇親会に太田会長と河西で参加してきました。

第62回とのことで、長く続いているのに驚きです。現会長は8代目で、前会長からは8年はやらないとと言われたそうですが(計算すると確かに8年ぐらいになりますね)。会長職は中々大変だとあらためて思います。

さて、活動としては、大学の新入生を対象にした入門ゼミの開催(3年生ぐらいが対象なのでしょうか)聞きそびれてしましました)、特殊講義を今年は法学部を対象に行うそうで、次は経営学部を対象にしたいとのことでした。

参加人数は大学関係者、友好団体の方々、日本公認会計士協会の副会長も参加され、総勢50名ぐらいでした。

新規会員が増えないのが悩みだそうで、大学主催の祝賀会に出て勧誘するも加入者は少ないそうです。

どこの友好団体もも同じ悩みを抱えていることを再認識しました。

今年も、くじ引きが行われ、私が商品を引き当ててしまいました(専修大学会計人会のみなさん、すみません)。商品はレアチーズケーキでした。おいしくいただきました。

最後は、校歌斉唱で終わりました。



●明治大学公認会計士会懇親会 河西正之(平成元年卒)

2025年7月30日に明治大学公認会計士会の懇親会に山田副会長と河西で参加しました。

当日はカムチャッカでの地震の影響で津波が観測され、電車が止まったりするなど、無事に集まれるのかが危ぶまれましたが、50名ぐらいは集まっていました。

今回は役員の改選時期だそうで、新会長が選任されました。新会長からは、会に参加する人の高齢化と若手の参加が課題と話がありました。課題については、どの友好団体でも同じ内容を聞きます。

明治大学公認会計士会では、若手を集めてのキャリア相談などイベントを行つて入会者増につなげているとの事でした。

法友会で同じことをするには相談を受ける若手を集めるのが大変で、実現するにはなかなか大変そうな気がしますが、一つの参考になるのではないかと思います。

また、明治大学は、会計士の人が大学の財務担当や監事に就任するなど、大学運営の要職に就任しています。これも大学への貢献の一つです。

最後は、校歌斉唱でお開きとなりました。

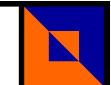


●簿記チャンピオン大会 河西正之(平成元年卒)

2025年11月8日(土)に市ヶ谷キャンパス富士見ゲートで開催された簿記チャンピオン大会の交流会に参加しました。簿記チャンピオン大会はHAPP(会計専門職講座)1年生の2級相当の大会です。成績上位者には会計士試験短答受験を条件に法友会から奨学支援金が支給されます。

当日は25名程が参加していました。申し込みは34名でしたから、だいぶ欠席者がいたことになります。下の試験会場の様子を見てもらうと分かります。





簿記チャンピオン大会に参加する学生は、近年、減少傾向にあるようです。理由として考えられるのは、日商簿記がCBT (Computer Based Testing: オンラインで複数の受験可能日から自分で受験日を選ぶことができる試験方式)となり、自分の好きなタイミングで受験することができるため、今まででは簿記チャンピオン大会が本番前の腕試しだったのが、そうならずに簿記チャンピオン大会前に既に本番を受験してしまっているのではないか、ということでした。

簿記チャンピオン大会の開催日を変更するか、そもそも、継続すべきなのか再検討が必要な時期に来ているとのことでした。

試験終了後は、交流会が開かれ、太田会長、新井幹事、若杉幹事、鶴飼幹事、齋藤会員、河西が参加しました。それぞれが、学生と交流し、公認会計士の魅力や今後の勉強の方向性などの相談に乗っていました。

途中で、和食顧問と飯塚副会長も見えました。

それぞれ学生と語らいましたが、会計士を目指している人が多く、今後の合格者増に期待がもてそうです。

最後に成績発表で、上位6名の人に奨学支援金受給資格照明書を渡しました。1位の人は90点(100点満点)でした。頑張れHAPPの学生！！





令和6年度定期総会決議等の概要

事務局より

令和6年度の定期総会を対面で2025年9月1日に開催し、原案通り承認されました。報告事項、決議事項の内容については、会報第38号をご覧ください。

新年度の役員体制は以下の通りです。

会長 太田 荘一（昭和52年卒）再任
副会長 飯塚 昇（昭和49年卒）再任
渥美 龍彦（昭和58年卒）再任
三浦 太（昭和60年卒）再任
大谷 はるみ（昭和60年卒）再任
倉持 直樹（平成4年卒）再任
佐竹 健二（平成12年卒）幹事より
幹事 嶋方 拓郎（平成12年卒）再任
新井 良明（平成23年卒）新任
鵜飼 鳩大（令和5年卒）新任
監事 酒井 宏暢（昭和57年卒）再任
顧問 和食 克雄（昭和35年卒）再任
事務局長 河西 正之（平成元年卒）再任

会員寄附担当	石川 正敏（昭和58年卒）再任	校友会担当
祝賀会・総会担当	山田 努（昭和59年卒）再任	士業の会担当
会員親睦担当	越智 一成（平成9年卒）再任	若手育成担当
研修担当	春山 直輝（昭和62年卒）再任	総務担当
会員親睦担当	森口 輝来（平成11年卒）幹事より	祝賀会・総会担当
士業の会担当	鵜藤 葉子（平成14年卒）幹事より	若手育成担当
若手育成担当	牧野 智成（平成12年卒）新任	若手育成担当
若手育成担当	若杉 七海（令和4年卒）新任	会員親睦担当
祝賀会・総会担当		
	小場 貴之（昭和63年卒）再任	
	矢部 豊（昭和41年卒）新任	



会員研修会報告

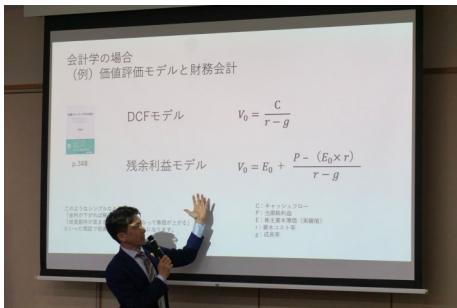
大谷 はるみ（昭和60年卒）

公認会計士法友会（法政大学出身の公認会計士等のパートナー組織）では、年2回、会員向けの研修会を実施しています。今年度第1回目は、令和7年9月1日に開催されました。講師には、法政大学経営学部教授であり高度会計人育成センターセンター長、さらに日本ソムリエ協会ワインエキスパートでもある川島健司先生をお迎えし、「会計専門家のためのワインテイスティング入門」と題してご講演いただきました。

研修は、「理屈を知ると味わいが深まること」「産地・品種・造り手の実態を分析的に推論できること」が会計学や財務分析に通じる、というお話から始まりました。その後、受講者全員がワイングラスを手に取り、実際に試飲をしながら「ワインの楽しさを知ること」、そして「自分の好みを知ること」を体験しました。研修後の懇親会では、ワインと食事のマリアージュについて、具体的で分かりやすい解説を交えながら実践的に学ぶ機会となりました。短時間ながらも、ワインに詳しい方から初心者まで幅広い受講者にとって有意義で、まさに「大変お得な」研修となりました。

講師の川島先生：スライドの左側にはワイン分析、右側には企業分析の評価視点が書かれており、ワインも会社も分析手法がよく似ているとのお話でした。

(研修中の様子)



(懇親会の様子)





公認会計士法友会

公認会計士法友会事務局

〒169-0074

東京都新宿区北新宿4-19-15

E-mail: hosei.hoyukai@gmail.com

母校の発展と後進育成への貢献を
目指して活動しています。

12月末現在の会員数 806名

ホームページもご覧下さい。

<https://hoyukai.la.coocan.jp/>



編集後記



川島先生によるワイン講座。参加された皆さんから好評をいただきました。次回も開催してほしいというお声を多くいただきましたので、検討したいと思っています。(写真は、総会後の懇親会で提供されたワインに合う料理)

お正月といえば、個人的には箱根駅伝。残念ながら今年は本戦を走れませんでしたが、来年こそは!と期待をしています。

暖かいと思ったら急に寒くなったり、寒暖差が相変わらずありますが、皆さん、ご自愛ください。

今後のイベント予定

皆さん、ご予定ください。

・合格祝賀会: 2026年1月24日 薩埵ホール

物故者について

過年度において、下記の会員の方が永眠されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

故 金子 明嗣(平成元年卒)

● 法政士業の会よりお願い

法政大学校友会では、卒業生等が経営している(関係している)お店を「法政オレンジMAP」にて紹介しています。しかし、士業の方の登録がほとんどありません。

ぜひ、登録いただければと思います。下記URLの法政オレンジマップのサイトから店舗情報入力フォームへ進んでください。

<https://hoseinet.or.jp/orangemap/>

令和7年度(令和7年4月1日～令和8年3月31日) 年度会費及び寄付金のご協力のお願い

法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金で賄われておりますが、合格祝賀会などの行事開催費、通信費などの運営諸経費、友好他大学会計士会団体への参加費等の支出、また最近では、法政大学の公認会計士試験現役受験生の合格を支援する「奨学支援金」の原資として経常的な資金が必要であり、会員各位のご理解とご協力なくしては、持続的な活動が出来ません。

最近、会費及び寄付金を納めていただける方が固定化し、また、減少傾向にあります。一方、会員の増加で定期総会や合格祝賀会のご案内にかかる通信費の増大や「奨学支援金」の拡充等も必要となっております。会員の皆様の、ご理解とご協力を強くお願いする次第です。

今年度(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)会費の納入と寄付金のお願いをさせていただきたく、郵便振替口座振込用紙を同封させていただきました。

毎年の年度会費及び年度寄付金に、いったいいくら納入すればよいのか分からぬなどのご意見・質問が寄せられます。法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金の納入で支えられていますが、皆様に大きな負担を感じさせるのは本意ではありません。あくまでも会員の皆様のご厚意にお願いするものであります。

年度会費を納入されていない方につきましては、年度会費の5,000円だけでも結構ですし、年度寄付金・奨学支援金等の寄付金として10,000円(一口)だけを納入していただいても結構です。

もし、ご賛同をいただけるのであれば、年度会費と寄付金を合わせて15,000円を納入していただければ、大変、助かります。

振込先を記入した郵便振替口座用紙を同封させていただきましたが、銀行振込をされる場合は下記の口座にお願いいたします。

銀行口座 三菱UFJ銀行 東中野支店(店番152) 普通預金・口座番号 1559256 口座名・公認会計士法友会
<連絡先> 〒169-0074 東京都新宿区北新宿4-19-15 正和ハイツ

公認会計士法友会事務局 080-8886-0375 / hosei.hoyukai@gmail.com

Books!

書籍の出版情報を事務局までお寄せください。会報に掲載いたします。その際に、執筆者からの一言(書籍の宣伝でもOK)も併せてお願いいたします。

※現在、書籍の保管場所がないため、受入は中止しています。この場合でも、出版情報は引き続き掲載したいと思いますので、お寄せいただきますよう、お願いたします。その際に、執筆者からの一言(書籍の宣伝でもOK)も併せてお願いいたします。